

---

# キッズパフォーマンス

ブルーバード

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

キッズパフォーマンス

### 【Zコード】

Z5944P

### 【作者名】

ブルーバード

### 【あらすじ】

栗野 海10歳

将来のダンサーに期待されている。

そんなある日、世界有名ダンサーがスカウトに  
どうなる海。

ある町に、将来のダンサーに期待されている少年がいた。

名前は、栗野 海くりの うみ 10歳

劇団に入っている。

ダンスが上手でよく先生からもほめられる。

学校では、発表もしないテストの点が悪い優等生ではない。  
体育では、上のほうだ。

そんなある日、彼をスカウトに来た人がいた。

その名は、ステップ・マイケル。  
世界の有名ダンサー。

ツアーでたまたま日本にきていた。

そして、海のうわさをかぎつけてきたみたいだ。

ピンポーン

「はーい」

ガチャリ。

「コンニチハ、私ステップ・マイケルでござります。」

「あー！あの、マイケルさんだーー！」

「海くんだよね？」

「うん！ってかなんで僕の名前知つてんの？」

「噂をかぎつけたのさ」

「ふうーん」

「それより、君をスカウトしにきたんだ

「えーーーーーー！」

「今度、アメリカで公演があるから君にでて欲しい  
「だって僕そんなに・・・。」

「いいの、いいの費用はこちちらで払うから

「僕・・・自信ない。」

「大丈夫さ。君ならきっとできる。明日、午後3時に練習がある。やる気があるならおいで。」

「うん?」

「これ、お家の人と相談して書いてね。」

「うん。」

「それじゃあ。明日、君が来るのを楽しみにしてるよ。」「明日。いきます。」

「バあーイ」

帰つて行つた。

そして、その夜。

「僕、アメリカの公演出たい!」

「ムリムリ、お前はまだ未熟だ」

「だつて、マイケルさんは僕を認めたんだ」

「マイケルさんが認めてもほかの人は認めてくれないかもよ」

「でも、僕は出たい。明日練習に行く約束したんだい」

「公演は、12月23日。今週の土曜日よ。」

「お願い。僕どうしても出たい。こんなチャンスもうないかもしないんだ。」

「そうだけど・・・」

「ねえー、お願い。」

少し泣き田になつて、とうとう泣き始めた。

「分かった。分かった。考え方。ただし、駄目だと言つても文句なし。」

「うん、分かった」

「分かったならいいわ。今日は、遅いから寝なさい。」「はあーい」

「お休み・・・。」「お休みなさーい」

海は、楽しみで眠れないほどドキドキしていた。

つぎの日の朝

正義の本

そして、いつもよりはやく学校に行つた。

「ねえ、希世史」

希世史は、海の一番の友達である。

「僕ね、マイケルにスカウトされて今週のアメリカで行われる公演

「えー!! !すゞゞやん

「きびしいなあー。俺の母ちゃんは、すべに〇元だすけどなー」「

「僕、お願いしたんだよ。だけど・・・」

卷之三

「えつ  
み」  
二十九

「練習に、行つていいとかの返事を聞くのが今日なんだよ」

「ふうーん。OKがでたらいいね」

ニノムニ

僕、絶対に出たい。心中で思つた。

「ただいまー」

おたえ！」

海は、ドキッ、とした。

海は、うれしかつた。

お、かとうお母さん

「マイケルさーん」

「おつとー海君、來たね。」

「お願ひします」

「どうぞ、さあ一練習をはじめるよ」

「はい」

そして、ハードな練習がはじまりた。  
5時間にわたつた練習が終わつた。

「明日もがんばれ、海君」

「はい。ありがとうございました。」

「あつと、忘れてた。」

「なんですか?」

「明日から、朝8時から夜7時までの練習となる。だから、この一週間だけ学校を休まなければならぬ。それでもいいか?」

「はい。大丈夫です。」

「あと、金曜日の夕方5時の飛行機にのることになつてゐる。このことをちゃんと伝えてね」

「はい」

「じゃー、バイバイ」

「ばいばい」

海は、走つて家に帰つた。

そして、つぎの日から学校を休み、毎日練習に行つた。

金曜日・・・

いよいよつぎの日に向けて海とマイケルをのせた飛行機が出発した。

「マイケルさん」

「ん?」

「ホントに僕でよかつたんでしょうか」

「大丈夫、安心しろ」

海は、ホテルについても、なかなか落ち着かなかつた。  
土曜日・・・

「マイケルさん」

「なに?」

「おはよう

「おはよう?」「

海は、少し緊張していた。

「する、する

「もしも」

「よしす、海

「その声は、」

「海、俺だよ希世史だよ。」

「希世史!」

「応援の電話だよ。」

「希世史、ありがとう。」

「いやいや、俺も海のこと心配になつて  
「ぼつ、僕すうーーいく緊張してるんだ」  
「緊張すんなつて、本番でまちがえんなよ  
「うん、希世史の声を聞いたら緊張がとけたきがする  
「よかつたあー。じやー俺もう熱の時間だから、切る。」

「バイバイ

「バイバイ頑張れ

ツー、ツー、ツー。

海は少し、元気になつたよしだ。

「おーい、海!」

「なあーに、マイケルさん

「移動するから、早く準備してロビーに来てー

「はい。」

海は、準備をしてロビーに行つた。

そこからバスに乗り、一足早くマイケルさんと会場に行つた。

今は、9時25分。

公演は、1時30分～5時20分。

今日は、ハードな一日となつそう。

「おーい、海

前方に見えるのは、お父さんと、お母さん。

「わあーい

「海、今日の公演見に来た。」

「ありがとう

「それより海

「ん？」

「練習は・・・。」

「あー————。行かなきやあ——」

海は、急いで練習へ行つた。

やつぱり、練習から疲れ果てていた。

12時・・・。

本番まで、1時間半。

きゅうに、緊張してきた。

そして、本番2分前。

メールがきていた。

海へ

緊張しないで頑張れ。

俺には、海がステージに立つてするのが思い浮かぶ。

俺にはそっちの様子がわかんねえーけど、

海が、活躍すると思うとは・・・。

写真送つてくれよ。

希世史

うれしくて涙がでそうだった。

そして、音楽がなつた。

ジャカジャカジャカジャカジヤン

「キッズパフォーマンス、海&ステップ・マイケル  
ヒューヒュー。」

会場は、盛り上がった。

笑顔で海は演技する。

大技の空中10回転成功。

観客からのエールと、希世史の応援でアメリカ公演が終了した。

「海・・・」

「はい」

「大成功」

「うん」

なんとなくうれしかった。

日本に帰つて・・・。

みんなから迎えられてうれしい。

つぎの日

「海――――――」

「希世史！」

「よかつたなあ――」

「うん」

「成功してよかつたな――」

「うん、だいたいうまくいったし満足」

「俺も見たかった―。」

「写真だけでいいじゃん」

「ちえー」

キッズパフォーマンス お・わ・り

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5944p/>

---

キッズパフォーマンス

2010年12月30日22時24分発行